

【日本加圧トレーニング雑誌】投稿・執筆規定

加圧トレーニングとは発明者佐藤義昭博士が45年以上の歳月を費やし試行錯誤の末に生み出されたメソッドであり、国内外には数多くの知的財産権を保有しております。「加圧トレーニング」という標章も商標登録された知的財産権の一つです。よって「加圧トレーニング」に関する知的財産権に基づく“加圧(血流制限下におけるあらゆるメソッドを含む) 及び加圧トレーニング”に関する執筆に際しましては以下の各項目を踏まえ順守して下さい。

【知的財産権の基での順守事項】

論文・書籍(電子書籍を含む)(書籍の場合、別途“著作物許諾契約”の締結が必要です)

1. 論文・書籍の場合、著作者:佐藤義昭或いは著作権者:KAATSU JAPAN株式会社の何れかとの共著または監修・謝辞の記載による出版が必須である。
2. 申請前に作成された論文で新たに使用する際も上記に準じ、許諾の申請が必要です。
出版された書籍に関しても増刷・重版時に同様の申請が必要です。
3. 見出しに加圧トレーニングの記載をする場合は、“加圧トレーニング®”と表記する。
4. 「加圧トレーニング」とは、の記載にあたり下記クレジットの表記が必須。
“「加圧トレーニング」とは、発明者佐藤義昭が45年以上にわたり研究を重ね生み出されたメソッドである ”
5. 本文中に「加圧トレーニング」の表示がある場合は、下記クレジットをフッターなど、その書類の何れかの箇所に表記する。
“ 本文中の加圧トレーニングの表示及び「加圧トレーニング」は、KAATSU JAPAN株式会社の登録商標です。”

【投稿規定】

1. 投稿論文の種類

- ① 日本加圧トレーニング学会および各種関連学会・研究会において発表された論文
- ② 加圧トレーニングに関する未発表原著論文および症例報告
- ③ 加圧トレーニングに関する論文(総説、特別寄稿、紹介、資料、学会報告など)

その他

2. 投稿者の資格

本誌への投稿は、筆頭著者は本会の正会員に限る。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りでない。

3. 倫理的配慮

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、倫理的な配慮に関する記述をすること。

4. 原稿の採否および掲載について

投稿原稿の採否および掲載順は編集委員会が査読結果に基づいて決定する。

依頼原稿についても、編集委員会が必要に応じて修正、削除、加筆など原稿の訂正を求めること

がある。

5. 掲載料

掲載料は、規定枚数以内は無料とする。ただし、規定枚数を超過した場合は、超過分に要した費用を徴収する。カラー掲載は実費負担とする。

6. 別刷り

掲載の際は、別刷り30部を無料で贈呈する。それ以上の別刷りを希望の場合は、50部単位にて申し受け、実費を徴収する。

7. 原稿送付方法

郵送投稿と電子投稿の2つの方法があるが、電子投稿がより推奨される。

1) 郵送投稿

投稿原稿はデータを保存したCD-RまたはUSBを簡易書留で郵送すること。

2) 電子投稿

執筆規定に沿って作成された原稿をMicrosoft Word(Windows / Macintosh)形式で保存し、電子メールに添付して編集委員会へ送付すること。その時、図表もすべてMicrosoft Wordに貼付すること。

原稿送付先

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル

株式会社毎日学術フォーラム内

「日本加圧トレーニング学会雑誌」編集委員会

E-mail: maf-kaatsu-soc@mynavi.jp

8. 著作権を含む知的財産権および出版権

本誌に掲載された論文(図表、写真を含む)の著作権および出版権は日本加圧トレーニング学会に帰属する。内容の一部または全部を引用・転載する場合には事前の許諾を必要とする。

9. 投稿誓約書の添付

本誌に掲載された原著、症例報告、短報が他誌への重複投稿をしておらず、投稿する論文内容について筆頭著者を含め共著者全員の同意が得られていることを証明するにあたり、著者、共著者全員が別紙「投稿誓約および同意書」に自筆による署名をして投稿論文に添付すること。

10. 投稿原稿について

投稿原稿は、未出版かつ他紙に投稿中の原稿でないこと。他誌に投稿された論文の図表等の一部を使用する場合には、既報の論文を引用すること。詳細については、編集委員にご相談ください。(編集委員会より日本加圧トレーニング学会誌(日本語)に掲載された論文のうち、英文誌への投稿もお願いすることもあります)

【執筆規定】

1. 標題(表題)頁

論文の種類、タイトル、著者名、所属機関と連絡先(郵便番号、住所、電話およびFAX番号、

E-mail アドレス)、キーワード(3~5 語)

2. 要旨:400 字以内で、「目的」、「方法」、「結果」、「結論」を書き分けて簡潔に記載する。

3. 論文

a)原稿の長さ

図表を含めて刷り上がりページ数で以下のものを基準とする。原著論文8 ページ以内、症例報告4 ページ以内、総説6 ページ以内、特別寄稿6 ページ以内、紹介4 ページ以内。なお、刷り上がり1 ページは400 字詰め原稿用紙約4 枚、1600字に相当。表、図、写真は同原稿用紙1 枚として概算すること。

b)本文

はじめに(序論または緒言。目的を含む)、対象および方法、結果、(成績)、考察、結論で構成すること。

c)見出し記号

大見出しから順に、1.、2.、a).、b)....、1)、2)..とすること。

d)度量衡単位

度量衡単位は原則として国際単位系(SI 単位)を用いること。

長さ:mm、cm、質量:pg、mg、g、kg、時間:s、min、温度:°C、周波数:Hz 等

e)略語

略語は初出時にフルスペルで(必要に応じ和訳も)記載すること。

f)機器名の記載法

機器名は、「一般名(会社名、製品名)」で記載すること。

g)原稿の書式

A4 用紙 余白上下、左右25mm 40 文字×30 行 12 ポイント明朝体

4. 文献

引用文献のみとし、本文中の引用箇所には文献番号を右肩に記入して、引用順に並べること。

雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、ページ、発行年(西暦)の順に書く。単行本の場合は著者名、表題、書名、版数、編集者名、発行社名、発行地名、ページ、発行年(西暦)を記載すること。

雑誌名の省略は、欧文雑誌にあつては“Index Medicus”のList of Journal Indexed に従い、和文雑誌は「医学中央雑誌」の収録雑誌略名表に従うこと。

引用文献の著者氏名が4 名以上の場合は最初の3 名を書き、他は、他、またはet al.とすること。

<例>

雑誌

著者名(姓が先):論文題目. 雑誌名. 巻ページ, 発行年(西暦)

欧文雑誌

Nakajima T, Iida H, Kurano M et al. Hemodynamic responses to simulated weightlessness of 24-h head-down bed

rest and KAATSU blood flow restriction. Eur J Appl Physiol 104: 727–737, 2008.

和文雑誌

蔵野美葉、飯田陽子、安田智洋 他：各種急性運動における血中PTX3の反応について：CRPとの比較。

日本心臓リハビリテーション 14: 98–103, 2009.

単行本

欧文

著者名(姓が先). 表題. In: 編集者名, editor (s), 書名. サブタイトル, 版数、発行地名、発行社名、始めの頁数–終わりの頁数、発行年(西暦).

Ishii N. Factors involved in the resistance exercise stimulus and their relations to muscular hypertrophy. In: Nose

H et al. (Eds.) Exercise, Nutrition and Environmental Stress. Cooper, MI, USA, pp. 119–138, 2002.

和文

著者名: 表題, 書名, サブタイトル, 版数, 編集者名, 発行社名; 発行地名、始めの頁数–終わりの頁数, 発行年(西暦).

飯田陽子、中島敏明、蔵野美葉: 加圧トレーニング時の循環動態の変化. 加圧トレーニングの理論と実践, 佐藤義昭、石井直方、中島敏明、安部孝 編集、講談社、東京、p12–22, 2007.

5. 図表

1) 図表の作成について

図表は400字詰め原稿用紙1枚と換算する(図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、許可書を提出すること)。

各図表には、表題を付け、図には、原則として説明文を付けること。

2) 図や写真の解像度について

図: 印刷物からスキャナで画像を取り込む場合は、横7.8 cmを基準として150 dpi 以上の解像度とすること。

写真: 写真は原寸印刷が可能ないように、画像データのサイズは縦または横7.8 cm 以上を基準として150dpi 以上の解像度とすること。

被写体の人格権を尊重し、X線写真などの氏名、ID など個人を特定できる可能性のある情報は必ず塗りつぶすこと。